

岩屋中だより

令和6年9月2日 NO13

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

『自分を大切にする。』『情けは人のためならず』 成長のベクトル（力の向き）は自分自身へ

『自分を大切にする。』

1学期の当初から、私たちの生活は、あたり前にあるのではないから、『有難し=ありがたい=ありがとう』という感謝の気持ちを大切にしたいということに触れてきました。『ありがとう』と互いにいえる社会は、笑顔にあふれ、それは、幸せに近づくと話してきました。そのためには、支えあうことや、人に対して『優しい』気持ちで接する重要性も昨年度から触れてきたところです。『優』という漢字の成り立ちなども話したところです。さて、2学期が始まりました。これまでの岩屋中学校をこの夏休みに振り返りました。その振り返りを通して、今後の幸せのために（個人の幸せ、みんなの幸せ）生徒の皆さん、先生方、保護者の皆様、地域の皆さんで頑張っていきたいと考えたことを伝えたいと思います。

その1つ目は、『自分を大切にする』ということです。『自分を大切にする』というと、自分に対して甘くてよいと解釈しがちですが、決してそうではありません。私は、自分を大切にするということは、自分の人生を幸せにするための責任を負うということかな・・・と考えています。一度しかない人生を幸せにするために、自分をいかにきちんとコントロールかが、『自分を大切にする』ことだろうと思うのです。今の自分にできることは何かを考え、安易な方向に流されず、『正しいか、正しくないか』で判断ができることであり、自分に対して厳しく評価することです。大事なことをしっかり見極め、大事なことを本当に大事だと思って実践できれば、他人に対してもどうあるべきかがきちんと理解でき、それこそ、『優』という字の意味につながっていきます。

1学期の本校の様子を見ていて、安易な方向に流されずに、自己実現のために自分に対して厳しくある姿が今以上に増えてくれば、各人の、学級の、学年のそして学校の、そして岩屋は一層成長するのではないのでしょうか。

『情けは人のためならず』

2つ目は、支え合い、他人に対して優しい態度など、他人との関わり方について、皆さんに紹介したいのが、上記の言葉です。

『情けをかける』というのは、言い換えれば、『相手のことを思いやる』『相手のことを大事にする』と解釈できます。

それをもとに考えると、上記の言葉は、『えっ？他人のために優しくしたり、他人のことを大事にしたらその人のためにならないの？』と思う人がいるはずですが、上記の言葉は、決して、そういう意味ではありません。

相手のことを思い、相手を大切に、他人のために優しい行動をとることは、相手の幸せにつながり、その相手のためになるわけです。自分がかかわっている人を支える時にかけた『情け（思いやり、優しさ）』は、自分自身が支えてもらわなければならない状況になった時に、他人から助けてもらったり、優しくしてもらったりして、結果的に自分に返ってくるのです。つまり、他人のためにとやってやったことは、最終的に自分を救う（自分に対して中家をかける）存在となり、自分に返ってくるという意味だと思っています。

自分に返ってくるから優しくするのだというわけではないですが、他人にかけた『情け』は、自分自身につながっていくわけです。つまり、自分が他人に対してとった『プラス』の行動は、他人を笑顔にし、自分も一層幸せになるという『+（プラス）の幸せ』になるでしょう。1学期の生活を振り返った時、自分が他人にとった行動が相手にとって『プラス』だったか、『マイナス』だったかを振り返り、『プラス』になることを今後も続けていけば、きっと、それは『プラス』の力として自分に返ってきます。

自分のそのとき、『有難し』『ありがとう』は2倍になり、チームの成長がこの成長につながる瞬間かもしれません。2学期は、協力し合い、支えあう場面がたくさんあります。幸せを実現するために、周囲い対してどのような気持ちで行動するのが自分自身の幸せの実現の意味でもよいのか考えて生活してほしいと思いますし、『他人の幸せを自分の幸せ』として感じれる人間に成長してほしいものです。『情けは人のためならず』は、きっと2学期の生活の中に生かせるものだと信じます。

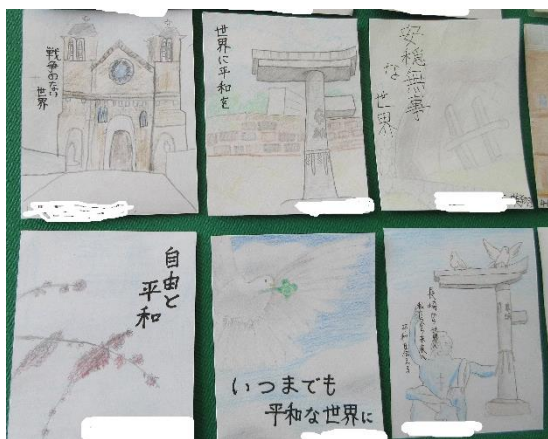
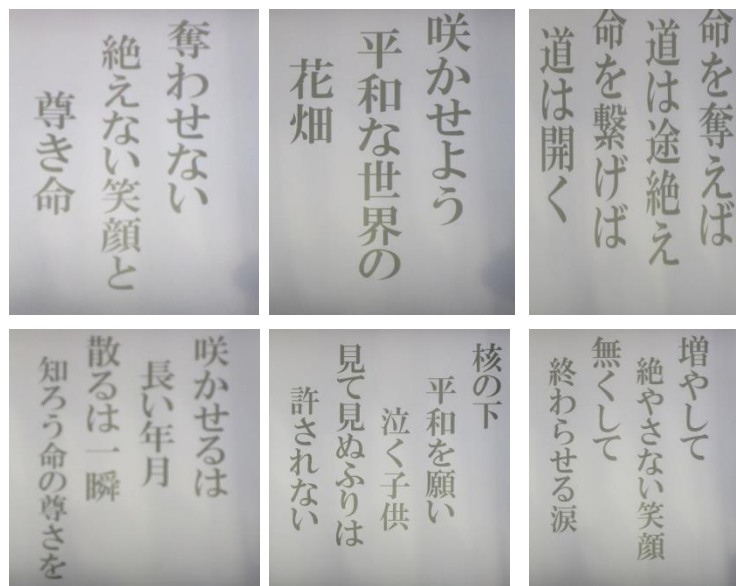
『心のベクトル（力の向き）は、自分自身へ向ける。』

ものごと自分の思うようにならなかったり、順調に進まずにイライラしたり、トラブったり……。誰もそのような経験があると思います。そのようなときに、自分の心の中には、『あーうまくいかない。むかつく！ どうせ●●のせいさ、やぜー、自分は悪くない、絶対△△のせいやしー』みたいな『ネガティブな感情』が生じています。そのネガティブな感情をそのままにしても、気持ちがすっきりしないから、そのような気持ちにした原因を私たちはつつい自分以外に向けることが多いものです。それは、子どもだけでなく、大人であっても同様だと私は考えていますし、これを書いている私も例外ではありません。壁にぶつかり、それを乗り越えるべき時に、私たちは、どうしても、その原因を外に見つけてしまいます。そこで、見極める力（ベクトル）を外から自分自身にベクトルを向かせるようにすることも成長にとって大きな要素となり、自分自身の学びになると思います。そういう私も、ベクトルが外に向き、原因を自分自身の中に探せていないなど感じています。大変難しい内容・表現ですが、自分の幸せを実現するために、もともとを見るベクトルは、外ばかりでなく、自分に向かせたいと思います。これは、1学期の便りでも触れた、『行動の判断基準』=『楽しいか、楽しくないかではなく、正しいか、正しくないか』にもつながります。2学期は、ぜひ、心のベクトルの向きを意識して生活してほしいと思います。



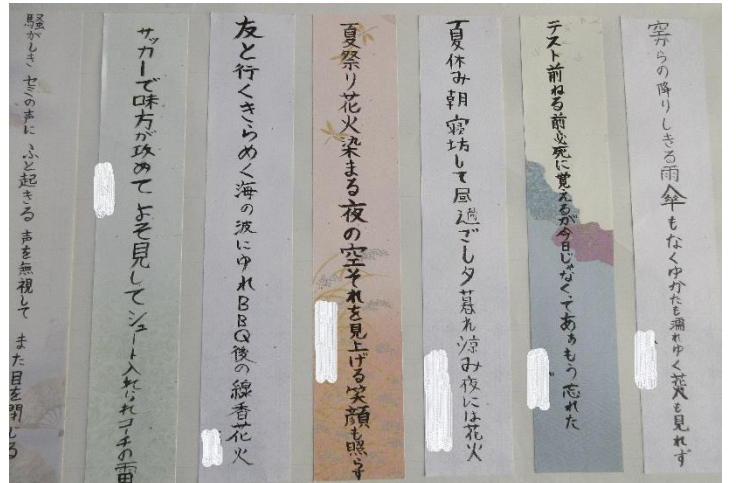
美術部さんが描いてくれました似顔絵です。前回配信時に紹介すべきところ、今回になりました。ありがたい宝物です。

平和標語平和集会時の電子黒板に投影されたものです）平和の大切さ・思いが表現されています・・・



文字や絵にして学ぶことでその思いを強くすることが出来ます。左記は、イラストも入れた1年生の平和標語です

2年生の短歌に親しむという学習成果が西側階段に掲示されています。写真では見づらいかと思いますが、心なごむ作品です。ご紹介します。



作品等は個人情報保護の観点から個人名は掲載していません。昨今は、個人情報保護、著作権などのため、文字ばかりの通信になっています……。ご理解ください。